

労働組合運動の状況

その概観

深刻なる恐慌裡に在つても、日本労働組合運動は微弱ながら組合員の増加を見、昭和六年末内務省社会局調査に依れば三十六萬八千九百七十五人である。前年度に比して約一萬五千人の増加を示した。然し乍ら、これを全労働者四百六十萬と對照すれば、組織率は僅に八パーセントに過ぎないのである。

今、日本の労働組合運動を概観すると、一言にして盡くせば、健實なる労働組合主義の勝利である。共産主義は全く非合法の地下にもぐり、その活動舞臺は著しく狭げられた。労働階級に對する直接の影響力は極めて微弱となつた。中間派諸團體も、健實なる組合主義を一應は掲げざるを得なくなつた。これは日本労働俱樂部及その發展改組たる日本労働組合會議の成立事情に依つて極めて明瞭である。滿洲問題と共に發生したる所謂「フアツショ」なるものも、浮薄輕躁なる一派の轉向に依つて、多少、組合運動界を賑はしたのであつたが、今日組合運動に關する限りには自ら解消の運命に在ると言はねばならぬ。元來、フアツシズムなるもの、定義も明かならず、賛否を問はず新しもの好きの連中に依つて弄ばれたに過ぎざる有様となつた。

斯くて、極右、極左の分裂運動ありしにも拘らず、日本労働組合會議成立し、一方社会大衆黨に依る政治戦線の統一も行はれ、着々本格的運動に進みつゝある。

日本労働組合會議の成立

労働立法促進委員會参加組合中、海軍労働聯盟を除く五團體に、中間派と稱せられたる團體を加へて、日本労働俱樂部を結成したのは、昭和六年六月であつた。我々同盟は茲に「健實なる労働組合主義」を確立する爲に、俱樂部の成立にも協力したのであつたが、未だ俱樂部の加盟團體が、眞に盡くこれに賛意を致して居るや否やは、疑問とするところ多かりし爲に「反共産主義労働組合の全的合同」を提唱した。然るに其後の状態を見るに、俱樂部そのものを、組合會議に發展せしめ、各團體の自主権を認めつゝ、漸時「健實なる組合主義」を徹底せしむるが、現下最良の方途であると思ひ、各友誼團體と協力して日本労働組合會議に發展改組すべく努力した。斯くて九月廿六日、東京に於て日本労働組合會議結成大會を舉行するに至つた。(規約其他は卷末附録参照)

現在、加盟組合は日本労働總同盟、日本海員組合、海員協會、官業労働總同盟、日本港灣従業員組合聯盟、日本製鐵労働組合聯合會、日本労働組合總聯合會、日本労働總同盟、全國労働組合同盟、東電従業員組合の十團體約二十七萬人を包含する。

日本労働組合會議は、反共産主義、反フアツシズム、反資本主義に立脚する健實なる組合主義をその指導精神とするものであるが、フアツシズムに對する定義の區々たるに鑑み、次の如くその内容を規定した。即ちフアツシズムとは「資本主義を擁護し、暴力若くは強權に依る獨裁政治を主張し、労働組合をその動員團體化さんとするもの」であつて、國家、若くは國民をその政策の内容、對照たることを以つてフアツシズムとは認めざることに決したのである。尙労働立法促進委員會以來行動を共にせる日本造船労働聯盟は、全國労働及東電従業員組合の主張と合致せざるを理由として組合會議を脱退した。

社民黨の分裂と社会大衆黨の成立

社民黨内に於ても、所謂「フアツショ」の一派發生し、内部に於て種々軋轢を見たのであつたが、四月十五日の中央委員會に於て、「フアツショ」派敗れ、遂に彼等は社民黨を脱黨し、分裂するに至つた。この分裂の影響を受けた總同盟は、退友同志會及中央合同労働組合の支部を失つた。全國労働も之と前後した多少の脱退組合を見た模様であつた。斯くて「フアツショ」一派の脱退の結果、全國労働大衆黨との合同問題も圓滑に進行し、七月廿四日、二黨合同して社会大衆黨が成立したのである。執行委員長に安部磯雄氏、書記長に、麻生久氏が推され、茲に多年の希望たりし無産政黨の統一が完成されたのである。